

## 遺跡見学会 「造山古墳周辺の遺跡めぐり」

### はじめに

造山古墳は、吉備の古代文化を代表する遺跡です。その周囲には、合計6基の古墳が築かれ、造山古墳を含めた計7基の古墳は「造山古墳群」と呼ばれ、現在国指定史跡になっています。この他、造山古墳群北西の三須丘陵には、墳長146mのこつくりやま小造山古墳や、大きな横穴式石室をもつにいけおおつか新池大塚古墳はじめ、注目される古墳が点在しています。

今回は造山古墳群とともに、三須丘陵に所在する小造山古墳・新池大塚古墳をめぐり、吉備の古墳文化について考えていきたいと思ひます。



図1 遺跡分布図 (1/6000)

こつくりやま  
①小造山古墳

造山古墳の北西、岡山市と総社市にまたがる三須丘陵に所在する、墳長約146 m、後円部径約95 m、後円部高11mの前方後円墳です。前方部・後円部とも3段築成で、後円部頂が前方部頂より2 mほど高くなっています。後円部北側に周溝・周堤をもつとされています。葺石の存在は不明ですが、後円部に埴輪列をもつとわれます。また、くびれ部西側に造り出しの痕跡らしきものが観察されます。造山古墳の北に位置する丘陵上に築かれています。

造山古墳と同時期の5世紀初頭の築造といわれています。墳丘上から埴輪片が採取されたほか、墳頂部で甲冑の破片・ガラス玉がみつかっています。

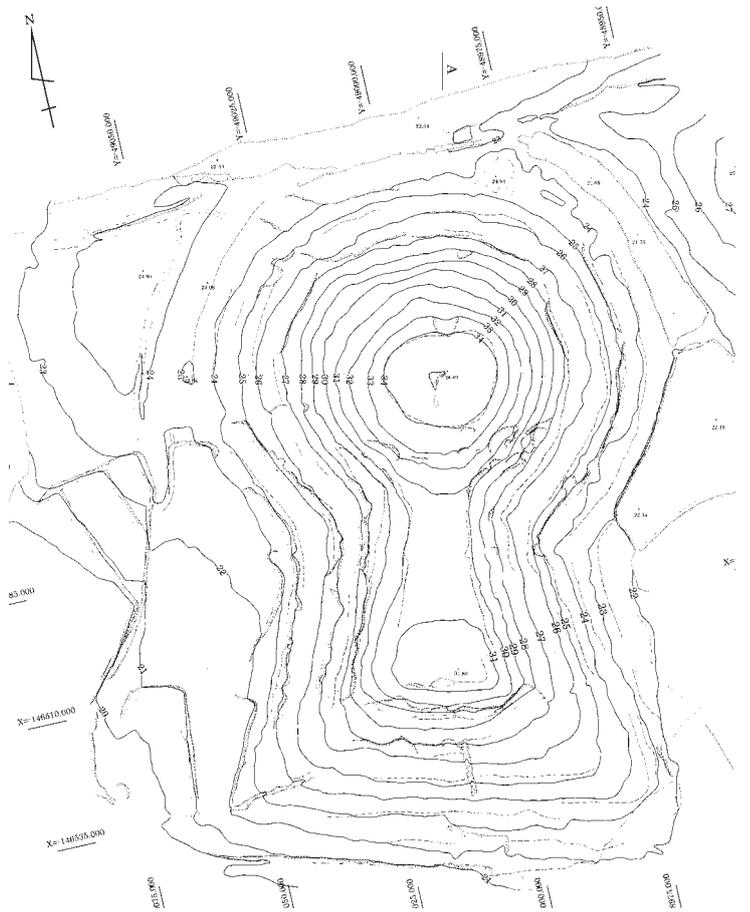


図2 小造山古墳測量図 (1/1500)

にいけおおつか  
②新池大塚古墳

16～18 m × 14.5 m の方墳です。埋葬施設は両袖式の横穴式石室です。現状で石室の全長は10.9 m となり、玄室部は長さ4.8 m、幅2.3 m、羨道部は幅1.4～1.6 mを測ります。これまでに発掘調査や遺物の採集等はありません。しかし墳形に関しては方墳を採用し、石室の奥壁も一石で構成されているなど、墳丘や石室にみられる諸特徴から新池大塚古墳は7世紀初頭頃に築造されたものと考えられます。



図3 新池大塚古墳測量図 (1/500)

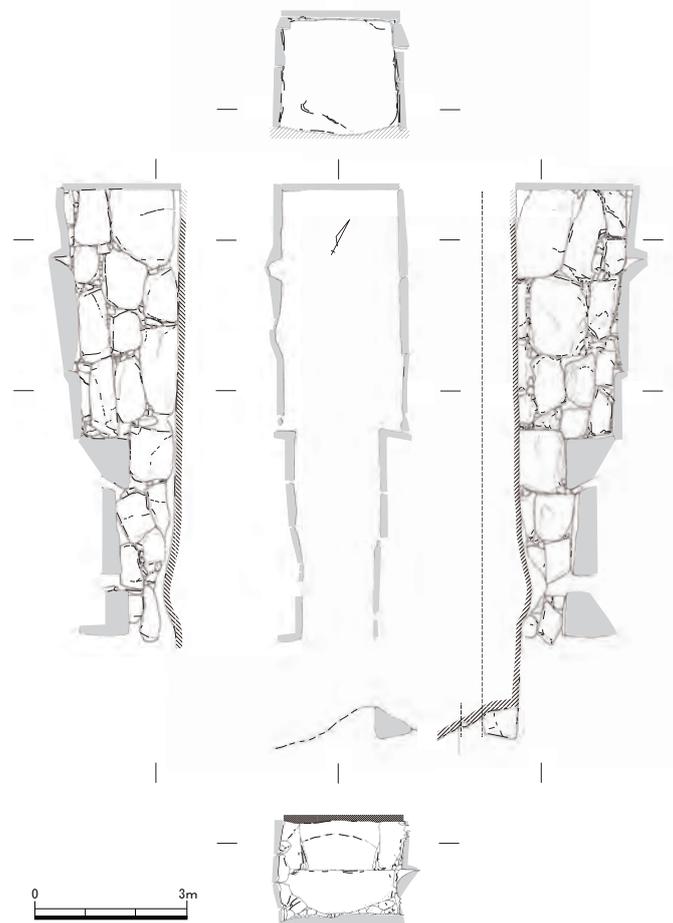


図4 新池大塚古墳石室測量図 (1/150)

### ③造山古墳

墳長約 350 m の前方後円墳です。全国第 4 位の規模で、自由に立ち入ることができる古墳としては、最も大きい古墳です。戦国時代、高松城水攻めの際、毛利方の砦として利用され、後円部墳頂部周辺や前方部と後円部の連結部分などにその痕跡がみられます。

採集されている遺物には、円筒埴輪の他、盾形・鞞形・蓋形・家形の各形象埴輪がみられます。これらの埴輪から、5 世紀初頭頃に築造されたものと考えられます。造山古墳群の中で最初に築かれる古墳です。墳丘は 3 段築成で、くびれ部に作り出しを持ちます。前方部墳頂部に石棺が置かれています。阿蘇熔結凝灰岩という九州産の石材で作られています。石棺は、荒神社建設の際に前方部から出土したという説と、新庄車塚古墳から出土したという説があります。

2015 年度から、造山古墳の正確な範囲を調べるため、墳丘部分の発掘調査を進めています。これまでの発掘調査では、墳端と推測される葺石や、墳丘盛土が積まれた痕跡を確認しました。今後も継続して発掘調査を進めていけば、古墳の正確な規模や埴輪列等遺構の有無が明らかになるものと思われま

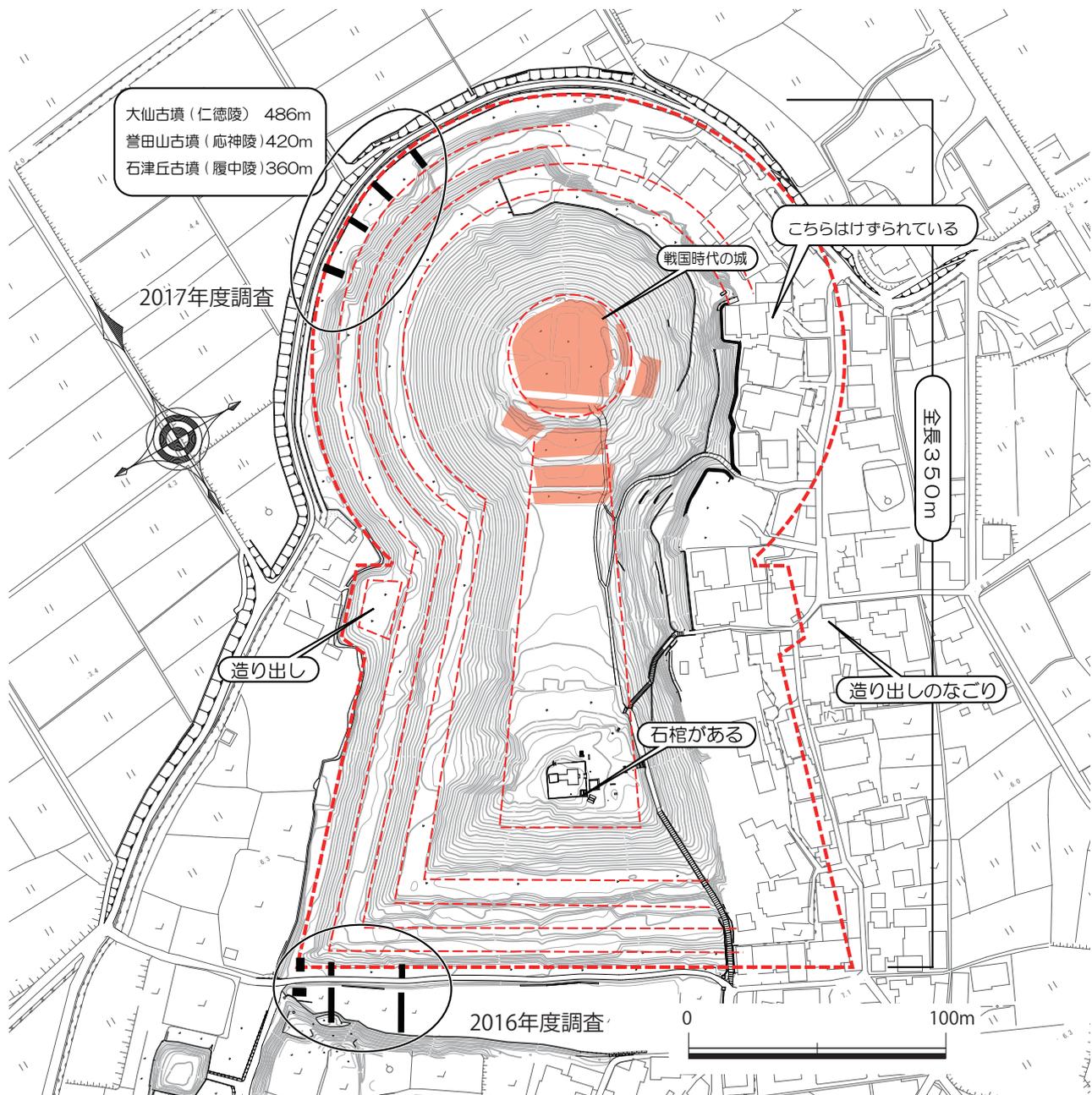


図 5 造山古墳測量図 (1/2500)

### ④ 榊山古墳 (造山第1古墳)

造山古墳前方部の正面に位置し、現状では径約35m、高さ約6.5mで二段築成の円墳ですが、帆立貝形古墳の可能性がります。1912年(大正元年)の乱掘で、高野槇製の割竹形木棺が発見され、多数の遺物が出土しました。また、周辺から伽耶系の陶質土器が出土しており、朝鮮半島との関わりを伺わせます。

### ⑤ 造山第2古墳

現状で、一辺約20m、高さ約4mの方墳です。1997年(平成9年)に、遊歩道の整備に伴って発掘調査が行われ、埴輪列や周溝の存在が確認されました。2015年10～11月に範囲確認調査を行いました。調査の結果、葺石を伴う北東コーナーの墳端や墳丘の北側の周溝を確認しました。調査の結果、現状で一辺20mとされていたものの、本来は一辺約30mの方墳であったと考えられます。これまでに確認された埴輪などを比較すると、造山古墳群の中では最も遅い時期(5世紀中頃)に築造されたものと考えられます。

### ⑥ 造山第3古墳

墳丘の大半は削りとられているため、よく分かっていませんが、径30m程の円墳と考えられます。

### ⑦ 造山第4古墳

従来は径35mほどの円墳と考えられていましたが、1991年(平成3年)に農道拡幅工事によって前方部とみられる高まりや、周溝状の掘り込みが確認されました。その結果墳長55m程度の帆立貝形古墳と考えられます。周溝状遺構からは短甲形埴輪や家形埴輪などの形象埴輪が出土しました。

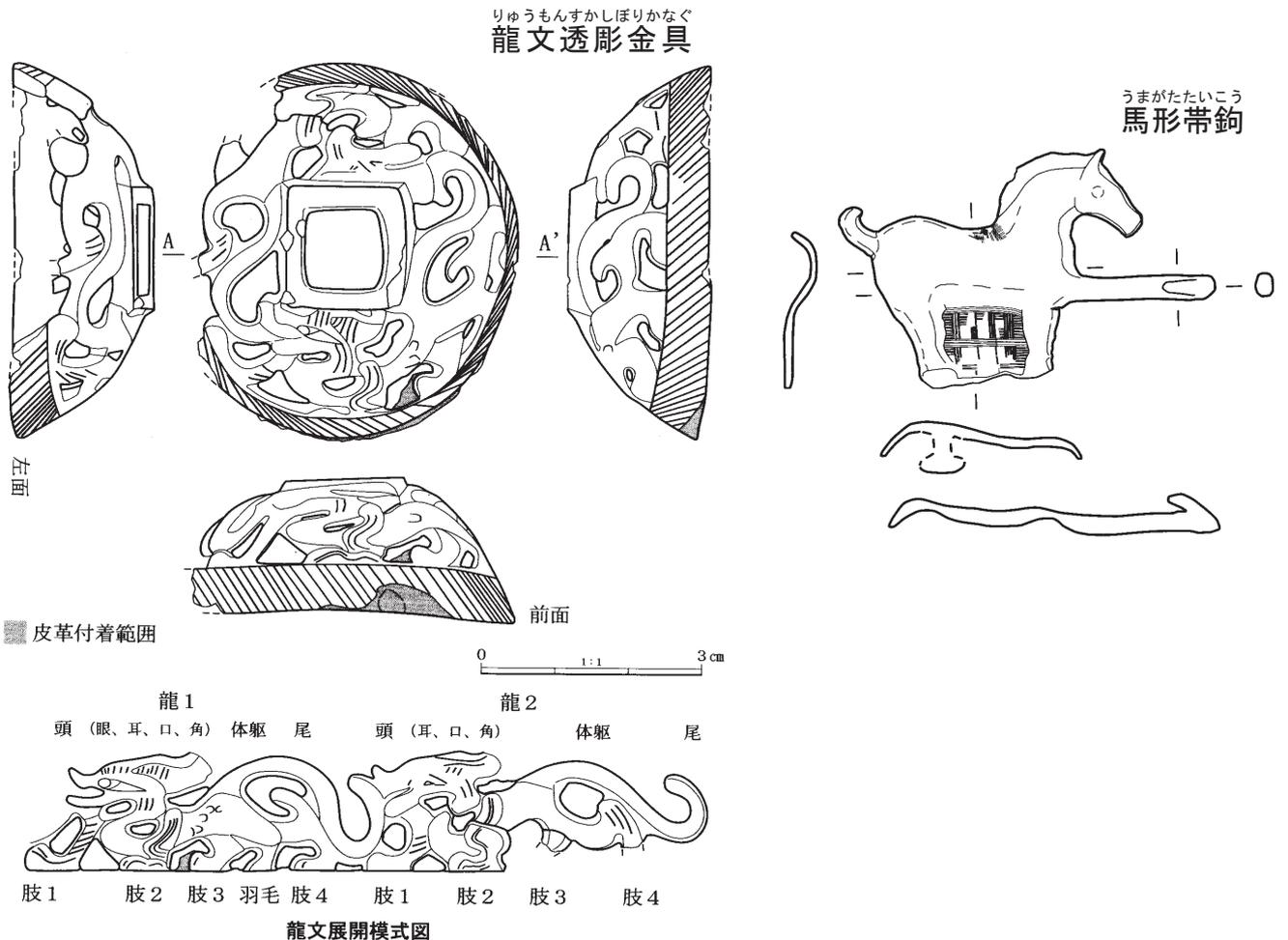
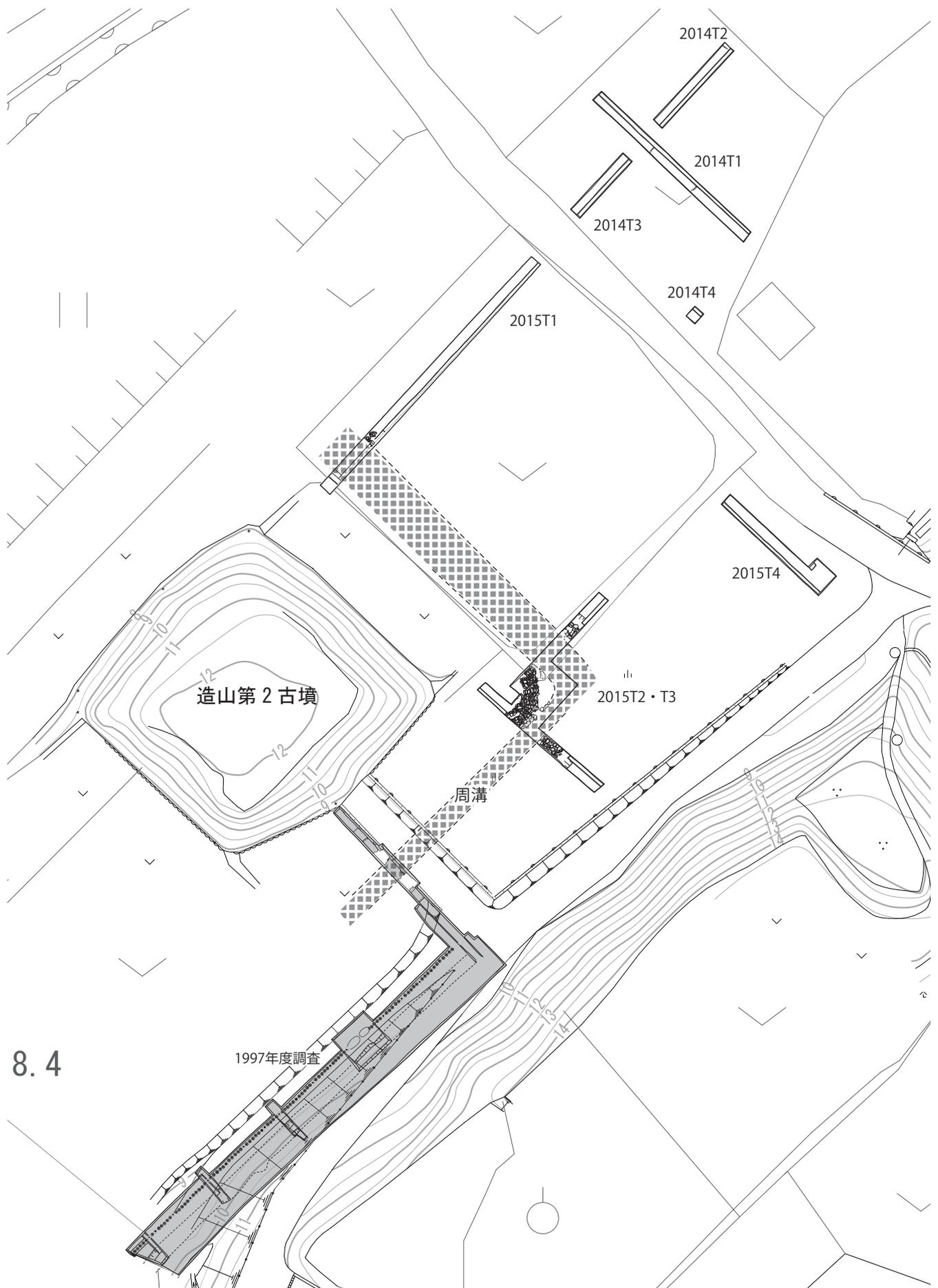


図6 伝・榊山古墳出土遺物 (1/1)



8.4

1997年度調査

图7 第2古墳平面图 (1/400)

## ⑧千足古墳（造山第5古墳）

墳長約81m、後円部径約63mの帆立貝形古墳です。後円部墳頂に吉備最古の横穴式石室（第1石室）が構築されています。1912年（大正元年）に乱掘され、その存在が明らかになりました。石室は天草砂岩製の分厚い板石で周囲を囲み、壁から天井に向けて香川産の安山岩の板石を持ち送りの強い小口積みにしています。石室内を仕切る石（天草砂岩）には、直弧文とよばれる古代の文様が彫刻されています。2009年（平成21年）にその直弧文が一部剥落していることが明らかになり、緊急処置として2011年に仕切石を取り出しました。仕切石の取り出しに先立ち、2010年（平成22年）、2011年（平成23年）に後円部の発掘調査を行いました。その結果、羨道部の構造が5世紀前半における北部九州の横穴式石室を類似していることが明らかとなり、また、乱掘坑の埋土から鉄器片が多数出土しました。築造時期は5世紀前半と考えられます。また、2013年度の発掘調査では、新たに横穴式石室（第2石室）の存在が確認されました。

現在、墳丘保護の工事とともに、第1石室の見学施設を建設しています。

## ⑨造山第6古墳

現状で径30m、高さ5mの円墳と考えられます。千足古墳の石室と同様の石材が散見されることから、横穴式石室を主体部とすると考えられますが、埴輪などは採取されておらず、不明な点が多い古墳です。

### 図出典

図2：澤田秀実・松木武彦・仲田周平 2014『小造山古墳・小ぐる古墳 測量調査報告書』くらしき作陽大学

図3・4：寒川史也・佐々木新吾・三浦由美子 2014「新池大塚古墳の測量調査」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第6号 岡山市教育委員会

図6：有馬伸・土屋隆史ほか 2015「附章2 1 宮内庁書陵部所蔵の千足古墳関係出土品報告」『千足古墳 一第1～第4次発掘調査報告書一』岡山市教育委員会

図8 岡山市教育委員会 1998『造山第4号古墳』

図9・10：岡山市教育委員会 2015『千足古墳 一第1～第4次発掘調査報告書一』

\*その他は岡山市埋蔵文化財センター作成

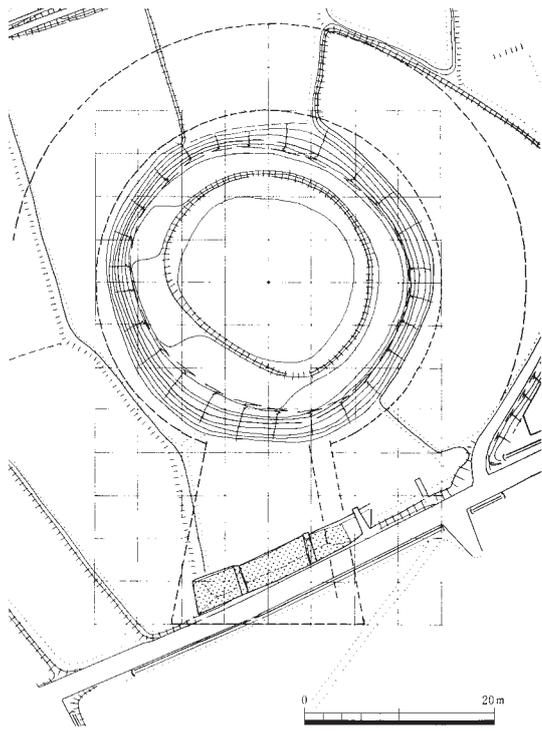


図8 造山第4古墳 (1/800)

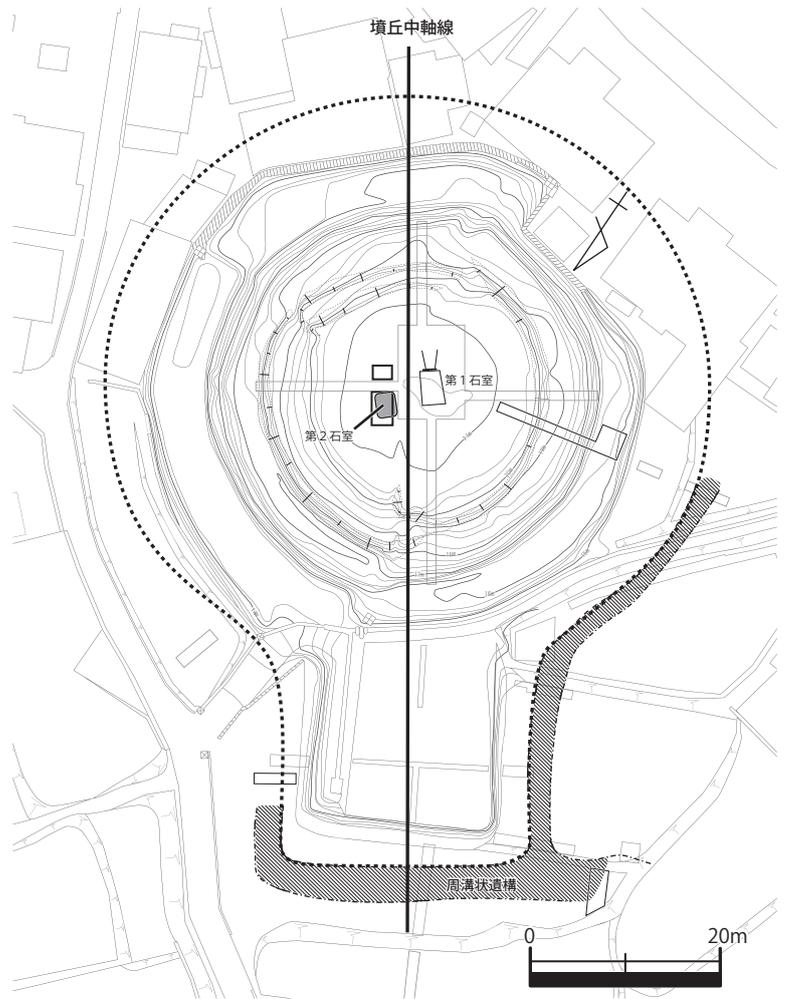
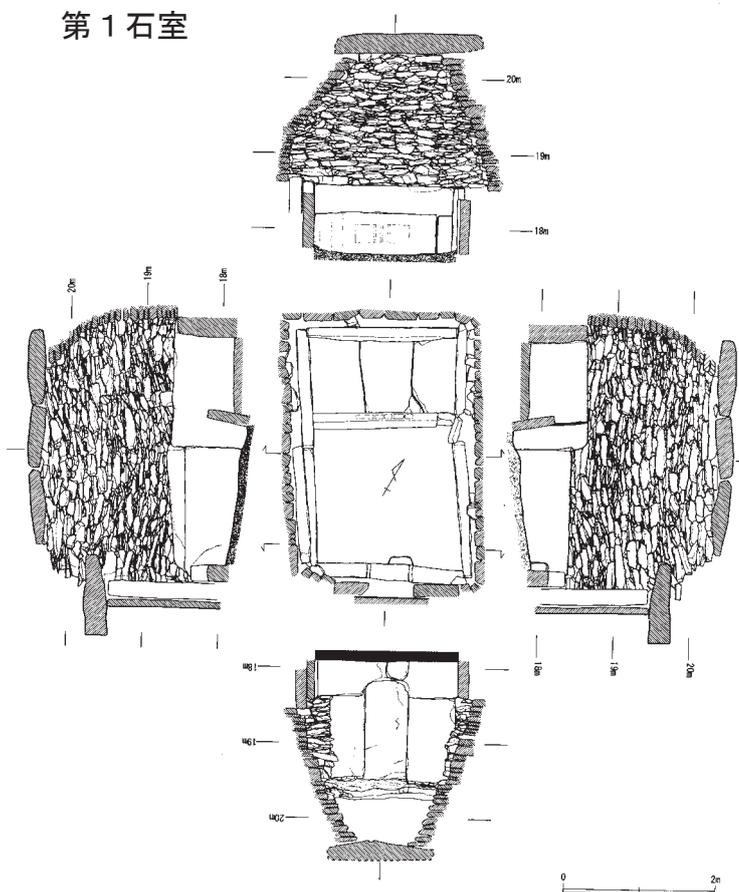


図9 千足古墳 (1/800)

第1石室



第2石室

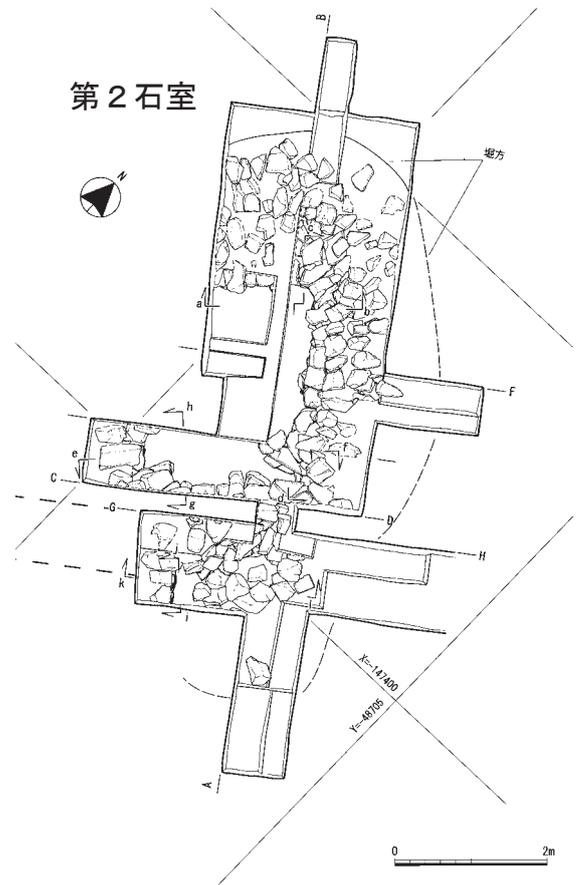


図10 千足古墳の埋葬施設 (1/100)